

白 山

令和5年12月20日
令和5年度第三地区広報誌「白山」第2号
第三地区協議会長 齋藤 均

県外視察研修を終えて (6月2日～3日)

第三地区副会長 瀬沼 務



6月2日(金)、3日(土)小千谷市民生委員・児童委員の視察研修(一泊二日)に参加してまいりました。

今回は、福島県会津若松市での視察研修となり、出発当日は、台風2号の西日本への接近に伴い、あいにくの雨の中でしたが、総勢39名で小千谷市役所を出発、バスガイドの巧みな話術を楽しみながら久々のバス旅となりました。

1日目は、今回の視察研修のメインとなる会津若松市の民児協との交流会及び「鶴ヶ城」と飯盛山の見学を行いました。

会津若松市の民児協は、主任児童委員32名を含む総勢279人で、小千谷市の民児協と比較すると約3倍強の委員で活動しており、担当者からも色々なお話を聞いて、参考になった部分と人数



が多い分、私達と違う苦労もあるということを知ることができ、大いに参考になりました。

宿泊は、会津東山温泉でしたが、懇親会では普段なかなか話をする機会のない他の地区の方と懇親を深める中で、他の地区の事を知ることができ、懇親会も大切なことだと再認識することができました。

ここ数年、コロナ禍でなかなか外に出る機会もありませんでしたが、こうやって視察研修に参加して、同じ民児協の仲間同士の絆が深くなったような気がするの、私だけでしょうか。来年度も視察研修が行われると思いますので、今回都合で参加できなかった皆さんは、是非参加され、自分自身のスキルアップと併せて色々なお話ができればいいなと思っております



町内会長と民生児童委員との懇談会に参加して (7月7日)

金箱 和美

生活支援活動「千谷川お助け隊」の立ち上げについて、千川谷副会長星野氏より講演がありました。

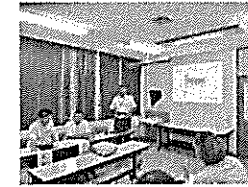
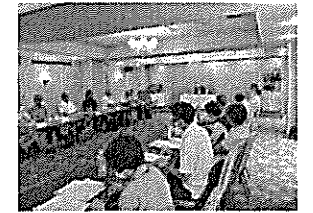
検討委員を選考し、どんな支援が必要か又出来るのか50項目程の中から6項目を選び、利用料や留意事項、利用者の家に入らない等を決め、活動中の保険は自治会保険に加入していると説明がありました。

今後同様な活動を検討中の町内や民生委員にとって、具体的でとても参考になる内容でした。そ

の後意見交換があり、災害時の民生委員の活動について、まずは自らと家族の安全確保が最優先であり、その後無理のない援助活動を地域と協力してする心構えが大切と確認し合いました。その中で、避難行動要支援者公表に不同意の方の名簿について話があり、活用が難しく町内としても扱いに戸惑っている様子がうかがえました。

災害時に町内とどうしたら上手く連携が取れるのか或いは必要なのか、今後の課題となりました。

他人事でない災害。その時の自分達の立ち位置や町内会の考えを知ることができ、とても有意義な懇談会でした。



「校長先生のお話を聞く会」を企画・実施して (9月4日)

主任児童委員 平澤 理子

第三地区は毎年9月の活動に、小千谷中学校区と千田中学校区の校長先生から学校運営の方針や課題、児童生徒の様子などをお聞きする会を計画し、実施しています。

今年は9月4日(月)、サンラックおぢやにおいて千田中学校区の千田小学校、和泉小学校、千田中学校、三校の校長先生からお話をお聞きしました。

今回強く感じた事は、「気持ちや行動のコントロールが困難」、「他者とのコミュニケーションをとる事が苦手」、「発達障害とみられる行動が多い」など子ども達の困り感に寄り添った援助や支援、見守りなどの特別支援教育の大変さでした。

子ども達だけの問題ではなく、保護者や家庭に問題がある事もあり、その関係性も大切であるとの事でした。地域の協力が必要な事案もあるかもしれません。地域を知る民生委員・児童委員として情報の共有、協力の大切さを改めて強く感じました。



研修会に参加して (11月9日)

須藤 真理子

11月9日、第三地区研修会で障がい者雇用に尽力されている十日町市の「着物ブレイン」に視察に行き参りました。知的障がいをもつ近親者の社会参加を糸口に始めた障がい者雇用が、現在では雇用率15%を超えているとのこと。「区別や配慮はしても差別や特別扱いはしない」理念の元、説明を受けなければ障がい者雇用とは気がつかない程、黙々と作業をしている姿に、当たり前の社会自立が出来る温かな環境に胸が熱くなりました。

